堺

たじはやひめじんじゃ
多治速比売神社

「荒山さん」とも呼ばれ、堺の古くからの梅や桜の名所で、現在も緑豊かな鎮守の森を形成している。創建年代は、明らかでないが、延喜式内社で、多治速比売を主神とし、素盞嗚命と菅原道真を祀る。社蔵の『高山縁起』（写本）に一本の樟の大木をもって社殿を造営したことが記され、伐採の様子が描かれている。原本殿の大部分に樟材が使用されており、絵巻物の記述を裏付けている。本殿は、入母屋造の平側千鳥破風・軒唐破風を付けた複雑な屋根形態で、その軒反りは鳥が翼を広げたような浮遊感を与えている。向拝では、足元の浜縁に据高欄を置き、浜床上に面取角柱を立てる。浜床の蹴込に盲連子を嵌める。柱間に虹梁型頭貫を入れるが、唐破風のある中央間では頭貫を省略する。柱上の組物は両端では連三斗、内側では、出三斗とし、中備蟇股を飾る。向拝と身舎は、両端に海老虹梁を用いて繋ぎ、組物の内側に手挟を入れる。身舎は、円柱を立て、柱間に上下長押・頭貫を回し、四周に組高欄付の縁を回す。当本殿の特色は、室町後期の遺構であるが、桃山時代の先駆となる写実的な優れた彫刻ー貝類、蟷螂、菖蒲、芭蕉、蓮を透彫した手挟、若葉を彫刻した拳鼻ーやダイナミックな外観をもつことにある。また、向拝木鼻の龍頭の形、軒唐破風に頭貫を通さないこと等、泉州の地方色が顕著にみられることである。大工は高石大工の「そ五郎」で、実肘木や唐破風棟桁に「たいしそ五郎」「たかいしそ五郎」の墨書がある。当本殿の優れた意匠にみられるように、高石大工が四天王寺や南都の大工に劣らない建築技術を持っていたことを示している。　（七堂元敏）

多治速比売神社拝殿の正月風景

多治速比売神社案内図

拝殿から見える本殿（重文）

所在地：堺市南区宮山台２丁3-1
交通：南海バス「宮山台二丁」すぐ
本殿の見学は事前の予約が必要です。
TEL：072-297-0726
http://www1.ocn.ne.jp/~tajihaya/